

9 中部国際空港への二本目滑走路整備による完全 24 時間化の早期実現に向けた支援強化

(国土交通省、観光庁)

【提言・提案項目】 **制度**・**予算**

わが国の中枢機能をより大きく分担することとなるリニア中央新幹線開業後の中部圏の将来像を見据え、中部国際空港への二本目滑走路の整備による完全 24 時間化の早期実現に向けた検討を進めるとともに、主にインバウンド需要創出の観点から、空港の機能強化および利用促進につながる、二次交通等アクセス機能の充実・強化に向けた支援を拡充すること。

- 1 リニア開業後の中部圏の将来像を見据え、中部国際空港の需要拡大に向けた調査検討に引き続き取り組むこと。
- 2 インバウンド需要の拡大に資する、空港および二次交通機能の強化やサービス拡大の取組への支援を拡充するとともに、新たなインバウンド向けサービス等の創出・定着に向け、地方自治体等や交通事業者と連携した実証実験等に継続的に取り組むこと。

《現状・課題等》

- 1 中部国際空港は、平成 17 年 2 月の開港以来、わが国の国際拠点空港として着実にその役割と責任を果たしてきており、平成 27 年 8 月に閣議決定された国土形成計画においても、「中部国際空港については、現在は滑走路が 1 本であるが、需要動向を踏まえ、完全 24 時間化を促進し、アジアのゲートウェイとして空港機能の充実を図る必要がある。(抜粋)」と明確に位置づけられています。2027 年のリニア中央新幹線の東京・名古屋間先行開業とその後の全線開業により、中部圏はわが国の中枢機能をより大きく分担することとなり、中部国際空港は、首都圏から関西圏に及ぶ巨大都市圏の国際ゲートウェイとしてより大きな役割を担うこととなるため、引き続き需要拡大に官民連携して取り組み、国際拠点空港の世界標準である完全 24 時間化に向けた二本目滑走路の早期整備を図る必要があります。
- 2 政府は訪日外国人旅行者数を 2020 年までに 4,000 万人に、2030 年までに 6,000 万人にする目標を掲げています。中部国際空港は中部圏の国際ゲートウェイとしてこの目標の達成に貢献していく必要があります。そのためには 2019 年上期に新たに開業予定の LCC ターミナルへの CIQ 施設の整備、審査体制の強化などをはじめとする、空港のさらなる機能強化と利便性の向上に向けた支援が必要です。
また、本県においても訪日外国人誘致を重要施策と位置づける中で、交通政策の観点からもインバウンドの増加を図る取組を重点的に進めているところであり、その鍵となる FIT (外国からの個人旅行者) の地方の観光スポット等への訪問や周遊を容易にするための二次交通機能の充実・強化が課題となっています。このため、二次交通におけるインバウンド向け路線の開設や増便、予約システムの開発、広域周遊パスの試行導入など、定着までに一定の期間を要するインバウンド対策について、交通事業者等の初期投資の軽減を図り、導入を促進するため、現行のインバウンド補助金の対象事業の拡充や予算の増額を図るなどの支援措置が必要です。
また、地方自治体等や交通事業者と連携し、訪日外国人旅行者向けのサービスや商品の開発に資する実証実験等については複数年度かけて実施するなど、十分な実証期間を確保することが、新たな仕組みの定着を図り、地方のインバウンド需要を拡大させる上で有効です。

事務担当 地域連携部交通政策課
関係法令等 空港法

